

## 執筆者一覧

太田良子(おた りょうこ) 東京都出身 現在東洋英和女学院大学教授 主な著訳書論文：『イギリス女性作家の半世紀(全5巻)』(共著, 勁草書房, 2001), アンジェラ・カーター『ワイズチルドレン』(早川書房, ハヤカワ epi 文庫, 2001), ルイ・ド・ベルニエール『コレリ大尉のマンドリン』(東京創元社, 2000), ジョン・ハーヴェイ『黒服』(研究社出版, 1997), 『現代イギリス女性作家を読む(全5巻)』(共著, 勁草書房, 1992)。

加藤憲明(かとう のりあき) 神奈川県出身 現在作新学院大学教授 主な著訳書論文：「バージニア・ウルフの視点(上・下)」(『作新学院大学女子短期大学部紀要』24-25, 2000-01), 「神格化されたラム像」(『作新学院大学女子短期大学部紀要』23, 1999), 「市井の人, ラム」(『作新学院大学女子短期大学部紀要』22, 1998), 「ジャンルとしてのエッセイ(1-2)」(『作新学院大学女子短期大学部紀要』19-20, 1995-96)。

金山亮太(かなやま りょうた) 兵庫県出身 現在新潟大学助教授 主な著訳書論文：「なぜ「チチプ」なのか?—『ミカド』をめぐる植民地主義と帝国主義」(『欧米の言語・社会・文化』7, 2001), 「『ハード・タイムズ』における「融合」と「解体」」(『人文科学研究』102, 2000), 「ディックさんの狂気は何を暴いているのか」(『人文科学研究』97, 1998), チェスタトン『チャールズ・ディケンズ』(共訳, 春秋社, 1992), ギッシング『チャールズ・ディケンズ論』(共訳, 秀文インターナショナル, 1988)。

クスティヤス, ピエール(Pierre Coustillas) ロアレ県出身 リール大学名誉教授 主な著訳書論文：*The Collected Letters of George Gissing*, 9 vols., co-editor (Ohio UP, 1990-97); *Kipling, Works*, 4 vols., general editor of 22 English volumes in French translation (Gallimard, 1988-2001); *The Diary of George Gissing, Novelist*, editor (Harvester, 1978); *Le Roman anglais au XIXe Siècle*, co-author (Presses Universitaires de France, 1978); *Gissing: The Critical Heritage*, co-editor (Routledge and Kegan Paul, 1972)。

倉持三郎(くらもち さぶろう) 愛知県出身 東京学芸大学名誉教授 主な著訳書論文：『トマス・ハーディ』(清水書院, 1999), ギッシング『無階級の人々』(共訳, 光陽社出版, 1998), ギッシング『ネザー・ワールド』(共訳, 彩流社, 1992年), ギッシング『余った女たち』(共訳, ニューカレント・インターナショナル, 1988), 『D・H・ロレンス—小説の研究』(荒竹出版, 1976)。

## 執筆者一覧

- 倉持晴美(くらもち はるみ) 東京都出身 現在共立女子大学教授 主な著訳書論文：ギッティング『無階級の人々』(共訳, 光陽社出版, 1998), メアリー・ウルストンクラフト『小説—メアリー』(光陽社出版, 1995), ギッティング『ネザー・ワールド』(共訳, 彩流社, 1992年), ギッティング『余った女たち』(共訳, ニューカレント・インターナショナル, 1988), 『十九世紀英国小説—女性と結婚』(荒竹出版, 1986)。
- 小池 滋(こいけ しげる) 東京都出身 東京都立大学名誉教授 主な著訳書論文：『イギリス文学探訪』(日本放送出版協会, 2003), 『ロンドン—世界の都市の物語』(文春文庫, 1999), 『ゴシック小説をよむ』(岩波書店, 1999), 『ギッティング選集(全5巻)』(責任編集, 秀文インターナショナル, 1988), 『ディケンズとともに』(晶文社, 1983)。
- 光沢 隆(こうざわ たかし) 愛知県出身 現在京都大学大学院博士課程在籍中 主な著訳書論文：“‘Storytellers’ in Elizabeth Gaskell’s *Sylvia’s Lovers*” (『ギヤスケル論集』13, 2003), 「プロレタリアートか、職人か—Gissing の *The Nether World*」(『中部英文学』21, 2002), 「ジョゼフ・コンラッドの『闇の奥』における「印象主義」」(『人間・環境学』10, 2001)。
- コールグ, ジェイコブ (Jacob Korg) ニューヨーク州出身 ワシントン大学名誉教授 主な著訳書論文： *Winter Love: Ezra Pound and H. D.* (U of Wisconsin P, 2003); *Ritual and Experiment in Modern Poetry* (Palgrave Macmillan, 1995); *Dylan Thomas* (Twayne Pub, 1991); *Browning and Italy* (Ohio UP, 1983); *Language in Modern Literature: Innovation and Experiment* (Barnes & Noble, 1980)。
- 小宮彩加(こみや あやか) 埼玉県出身 現在明治大学講師 主な著訳書論文：“Gissing the ‘Omarian’: *Fin de Siècle* Cult of Omar Khayyám and Gissing’s *Born in Exile* (1892)” (『日吉紀要英語英米文学』41, 2002), “Burden of Time: *Fin de Siècle Bildungsromane* by Hardy and Gissing” (『コロキア』20, 1999), “Classical References in Gissing’s *Born in Exile* (1892)” (『芸文研究』74, 1998)。
- 武田美保子(たけだ みほこ) 広島県出身 現在京都女子大学教授 主な著訳書論文：『<新しい女>の系譜—ジェンダーの言説と表象』(彩流社, 2003), 『ジェンダーは超えられるか—新しい批評に向けて』(共著, 彩流社, 2000), 「ダブリン解説—『ユリシーズ』, 民族, 女性性, 書くこと」(『京都女子大学英文学論叢』43, 1999), 『異文化への視線—新しい比較文学のために』(共著, 名古屋大学出版会, 1996), 『読むことのポリフォニー—フェミニズム批評の現在』(共著, ユニテ, 1992)。

並木幸充(なみき ゆきみつ) 東京都出身 現在東京理科大学助教授 主な著訳書論文:「小説家から詩人へ——*Wessex Poems*の成立をめぐる」(『ハーディ研究』28, 2002), “Otherness in Mansfield’s ‘Poison’” (『マンスフィールド研究』5, 2002), 「Thomas Hardy の Lyrics 考——Distance in Time の問題を中心に」(『ハーディ研究』27, 2001), “On Rereading *The Adventures of Harry Richmond*” (『東京理科大学紀要』33, 2001), 「*The Trumpet-Major* 再評価——通俗的喜劇の成立」(『日本ハーディ協会会報』21, 1995)。

松岡光治(まつおか みつはる) 福岡県出身 現在名古屋大学助教授 主な著訳書論文: “George Gissing and Artistic Alienation” (*Central Japan English Studies* 22, 2003), “Strategies of Silence in ‘The Half-Brothers’” (*Gaskell Society Journal* 17, 2003), 『ギヤスケルの文学——ヴィクトリア朝社会を多面的に照射する』(編著, 英宝社, 2001), 『ギヤスケル短篇集』(岩波文庫, 岩波書店, 2000), “Dickens and Memory” (*Rivista di Studi Vittoriani* 7, 1999)。

八幡雅彦(やはた まさひこ) 岡山県出身 現在別府大学助教授 主な著訳書論文:『北アイルランド小説の可能性——融和と普遍性の模索』(溪水社, 2003), 「グレン・パタソン『Fat Lad』(1992)から『ビッグ・サンダー・マウンテンの闇夜』(1995)へ」(『エール』22, 2002), “A Critical Enquiry into the Gissing Boom in Japan in the 1920s” (*Gissing Journal* 34.4, 1998), “Shan F. Bullock: Gissing’s Admirer and an Ingenious Short Story Writer” (*Gissing Journal* 32.2, 1996), “Pathos and Patience: ‘The Light on the Tower’ and ‘The Schoolmaster’s Vision’” (*Gissing Journal* 31.2, 1995)。